

4. 活動状況

4-1 病院

4-1-1 総合診療部

4-1-1-1 小児期診療科

1. 概要、特色

成育医療センターの中での総合診療部の役割は、チーム医療のかなめ役と小児科専門医育成のための研修である。チーム医療のかなめ役としては、医療技術が高度になり専門分化されればされるほど、全体的に患者を捉える医療が必要になってくる。高度専門医療を行う当センターにおいては、専門診療としての胎児医療、周産期医療をはじめ多くの小児専門医療が実施され、更に多臓器に障害を持つ児が紹介されてくるため、重度重複障害児を扱う機会も多い。そのような子ども達を専門診療部と連携しつつ包括的に子どもを診ることである。もう一つの役割が研修であり、スーパーローテーション方式の初期臨床研修を実施してきた医師が増えてきている中、後期研修として小児科専門医を目標においた研修を実施している。研修内容もプライマリケア、小児救急医療、保健医療、専門医療と広範囲に実施されている。

2. 診療活動

2.1 外来診療

総合診療外来、予防接種、乳幼児健診、発達外来、外科系専門診療部予診外来を担当している。総合診療部外来では、専門科を特定できない様々な主訴の患者が受診している。また多臓器に障害をもち各専門分野の医療が必要な児の主治医として、必要な医療がスムーズに漏れなく行われるようコーディネートしている。診療体制は、外来ローテーションレジデントが診察をおこない、スタッフ、医長に相談して診療をおこなっている。

2.1.1 総診初診

専門診療科のはっきりしない場合、多臓器にわたる疾患で総合的診察が必要な患者を対象としている。最近の傾向は、頭痛、腹痛、不定愁訴、夜尿、不登校なども増えてきている。

2.1.2 総診再診

初診で受診した患者のフォローと、救急センターに受診し、その後何回か当院でのフォローが望ましい患者の診察を行っている。救急患者の経過観察ができるため研修としても有益である。

2.1.3 総合予診

特に外科系専門診療部を受診する患者で総合的に評価、フォローが必要な患者に関して、内科的見地で診察をおこなっている。当院のように多臓器疾患をもつ患者には有効な外来である

2.1.4 総診午後

午前中の初診患者のフォローと入院していた患者の外来フォロー、在宅ケアを実施している患者のフォローを中心にレジデントが実施している。

2.1.5 予防接種

レジデント研修として予防接種ガイドラインに沿った予防接種の実施、アレルギー疾患、免疫不全症を持つ患者への接種を実施している

2.1.6 健診

当院出生の新生児の1ヶ月健診および、成育コホート調査中の乳児の6ヶ月健診、発達障害のある児の健診と適切な医療施設への紹介をしている。

2.2 病棟診療

乳児期病棟、小児期病棟、外科系病棟での入院患者のケアを行っている。当直帯で入院した患者の引継ぎが確実に行われるよう毎朝 7:30 より患者の申し送りおよび抄読会を行っている。

2.2.1 療育ケアチーム

重複障害児で長期入院および頻回入院児を対象にしている。各タームでのゴールを設定し、統一したケアができるよう、総合診療部、神経科、リハビリ科、看護部、ケースワーカーでチームを形成し週 1 回回診を行っている。在宅人工呼吸器患者も多数おり、地域の担当者との連携を行い退院後の患者のニーズにも対応できるような体制づくりを進めている。

2.2.2 緩和ケアチーム

様々な疾患で長期生存が困難な児童を対象としている。該当ケースのカンファレンス、勉強会を行っている。緩和ケア - を行った児も次第に増え、ノウハウを蓄積しつつある。医師、看護師、保育士、心理士、ケースワーカーで固定スタッフ+流動スタッフを形成することを目標としているが、人員配置が難しく担当スタッフを中心にして行っている。

2.3 各種疾患のガイドライン作成

総合診療部が扱う数が最も多い疾患、即ち川崎病、尿路感染症、体重増加不良、菌血症、細菌性髄膜炎、虐待、重度重複障害児について研究班を組織し、治療ガイドライン作成、後方視前方視的研究を開始している。

3. 研修、評価

3.1 プレゼンテーション

研修システムの充実のためレジデント対象の様々なカンファレンスを行っている。特にプレゼンテーション能力の向上を目的として下記のカンファレンスを行っている。

- (ア) 毎朝 7:30 ~ 8:00 レジデントによる新入院患者のプレゼンテーション
- (イ) 高山部長による英語による病棟回診 8:00 ~ 9:00
- (ウ) 学会発表の訓練のためのレジデントカンファレンス 毎週水曜日

3.2 各セミナー

下記のセミナーを定期的に行い知識の向上に努めている。

- ・ ランチタイムセミナー 火曜日、木曜日 12:30 ~ 13:30
- ・ Radiology conference 月曜日 17:00 ~ 18:00
- ・ 思春期勉強会 木曜日 18:00 ~ 19:00
- ・ evening seminar 水曜日 18:00 ~ 19:00

以下は evening seminar で行ったタイトルである。

4月7日	疼痛管理科 近藤先生	術後疼痛、癌性疼痛
4月14日	療育チーム 洲鎌先生、松本先生、有瀧先生	重度脳障害児の全身管理と療育ケアチームの活動準備状況
4月21日	不妊診療科	不妊治療について
4月28日	不育診療科 斎藤先生	流産の原因と治療
5月12日	産科 北川先生	胎児診断 - 母体血を用いた胎児診断法の開発
5月26日	製薬会社	輸液療法
6月2日	治験管理室 中村秀文先生	小児臨床薬理学入門 - 子どもの薬用量設定の基本と実際 -
6月16日	臨床検査部病理 松岡健太郎先生	レジデントに役に立つ病理診断の実際

6月23日	胎児診療科 左合治彦先生	胎児診断・胎児治療の現状と未来
6月30日	周産期診療部 久保隆彦先生	女性と飲酒
7月7日	製薬会社	日常診療に役立つ調整粉乳・アレルギー用ミルク
7月21日	新生児科 中村知夫先生	新生児蘇生の国際的標準化の動きと日本
7月28日	医療情報室 大原 信先生	「電子カルテと長期診療データベース構想」and「外国の小児病院訪問記」
8月4日	治験管理室 土田先生	臨床試験（含治験）の考え方ー基礎ーと日本の小児用医薬品の承認審査について
8月11日	国立がんセンター高橋利美先生	がん医療と「バカの壁」
8月18日	腎臓科 飯島一誠先生	腸管出血性大腸菌とHUS
8月25日	製薬会社	アトピー性皮膚炎と漢方治療
9月1日	救急診療科 阪井裕一先生	救急とみとり
9月8日	内視鏡科 林 篤先生	消化器疾患と内視鏡検査
9月15日	アレルギー心理 小嶋先生	ちょっと知っているだけで得する困った行動の対処方法
9月29日	総合診療部 松本先生	溶連菌感染症 診断から治療まで
10月13日	放射線科 北村先生	当院でよく行うアイソトープ検査
10月20日	神経内科 長澤先生	脳波と誘発電位 基礎と実例
11月10日	耳鼻咽喉科 泰地先生	中耳炎、乳幼児の難聴のお話
11月17日	神経内科 岡先生	未熟児の脳障害 脳室周囲白質軟化症を中心に
11月24日	集中治療科 中川先生	小児の人工呼吸器の基礎
12月1日	エール大学 Dr Ying-Ying Goh	Practical advise for clinical decision-making for resident
12月15日	総合診療部 洲鎌先生	子どもの脳障害と目・視覚の症状
12月22日	循環器科 金子先生	病棟で役に立つ不整脈の診断と治療
1月12日	膠原病感染症科 小林先生	先天性免疫不全
1月19日	外科 本名先生	胆道形成異常
2月2日	呼吸器科 川崎先生	胸X-rayの読影の基礎と秘訣
2月9日	こころの診療部 奥山先生	Medical abuse and Medical neglect
3月2日	小児腫瘍（血液）科 恒松先生	小児貧血の治療と鑑別診断
3月9日	医療相談 木暮医療社会事業 専門員（ケースワーカー）	医師に必要な社会福祉制度の知識

4. 医療連携

4.1 医療連携室業務

4-1-4 に別途記載。

4.2 成育医療臨床懇話会

地域医療施設との連携を密にする目的の一つとして地域の医師に開放した上記講演会を開催して
いおる。平成 16 年度は下記の 2 回が行われた。

第 4 回 平成 16 年 6 月 26 日 (土)

1. 予防接種の実際 (第一専門診療部 膠原病感染科医員 小林信一)
2. 小児泌尿器科疾患 (第二専門診療部 泌尿器科医長 上岡克彦)
3. 発達の遅れ、言葉の遅れた子どもの診かたと指導 (第二専門診療部 リハビリテーション科医長 高橋秀寿)

第 5 回 平成 16 年 10 月 30 日 (土)

1. 母斑・血管腫のレーザー治療 (第二専門診療部 皮膚科医員 中村 恭子)
2. 上肢に関する小児の整形外科的疾患と外傷 (第二専門診療部 整形外科医長 高山真一郎)
3. 行動に問題のある児の診かた、考え方 (こころの診療部発達 心理科医長 宮尾益知)

4.3 救急登録医制度

地域開業医の先生が直接当センター救急室に出向き、患者さんの診療にあたりと共に、レジデント
の指導も行ってもらっている。

5. 研究活動

赤澤 晃

- ・ 平成 16-18 年度厚生労働科学研究費補助金による 免疫アレルギー疾患予防・治療 研究事業 研究課題名：気管支喘息の有病率・罹患率および QOL に関する全年齢階級別全国調査に関する研究 (主任研究者)
- ・ 平成16年度厚生労働科学研究費補助金による 免疫アレルギー疾患予防・治療 研究事業 研究課題名：「食物等によるアナフィラキシー反応の原因物質 (アレルゲン) の確定、予防・予知法の確立に関する研究」 (海老澤班)
- ・ 平成16年度厚生労働科学研究費補助金による 免疫アレルギー疾患予防・治療 研究事業 研究課題名：アレルギー疾患の治療反応性予測因子の確立及びテラーメイド治療法の確立に関する研究 (近藤班)
- ・ 環境再生保全機構研究助成金による「大気汚染による健康影響に関する総合的研究、気管支喘息患者の年齢階層毎の長期経過・予後に関する研究 小児の班長
- ・ 成育医療研究委託 ヘルペスウイルス感染の胎児・小児期における実態把握と発症機構に関する研究 (藤原班)

6. 研修会 研究会

- | | |
|-------------------|--|
| 平成 16 年 7 月 15 日 | 第 3 回アレルギー臨床懇話会 (対象：世田谷区、目黒区、狛江市医師会小児 医療従事者) 公開症例検討会 |
| 平成 16 年 7 月 25 日 | 第 9 回日本ラテックスアレルギー研究会開催 (東京)
会長 赤澤 晃 |
| 平成 16 年 11 月 11 日 | 第 4 回アレルギー臨床懇話会 (対象：世田谷区、目黒区、狛江市医師会小児医療従事者) 公開症例検討会 |
| 平成 17 年 2 月 24 日 | 第 5 回アレルギー臨床懇話会 (対象：世田谷区、目黒区、狛江市医師 |

会小児医療従事者) 公開症例検討会

7. 社会的活動

赤澤 晃

- | | |
|-------------------|--|
| 平成 16 年 6 月 4 日 | 横浜市教育センター研究研修課 平成 16 年度「教育課題研修」講師
テーマ：アレルギー疾患への対応 |
| 平成 16 年 6 月 11 日 | 浦安・市川小児喘息研究会講演 テーマ：「季節・環境因子と喘息について」 |
| 平成 16 年 7 月 7 日 | 港区教育研究会講演「学校給食と食物アレルギー」テーマ：学校給食での食物アレルギーの適切な対応について |
| 平成 16 年 9 月 8 日 | 多摩小平保健所 平成 16 年度ぜん息講演会講師 テーマ：
「小児ぜん息の基礎知識と自己管理のポイント」 |
| 平成 16 年 9 月 11 日 | 横浜市旭区福祉保健活動「ぱれっと旭」学習懇談会講師 テーマ：
「ちゃんと知りたい子どものアレルギー」 |
| 平成 16 年 10 月 20 日 | 世田谷区小児科医会学術講演会講師 テーマ：これからの喘息治療はこう変わる」 |
| 平成 16 年 10 月 28 日 | 独立行政法人環境再生保全機構「平成 16 年度保健指導研修」講師：
テーマ：ぜん息における患者教育について |
| 平成 16 年 12 月 2 日 | 日本小児科学会認定山の手小児懇話会 テーマ：「小児のアレルギーについて」 |
| 平成 17 年 1 月 19 日 | 独立行政法人環境再生保全機構平成 16 年度ぜん息予防講演会
講演 テーマ：「こどものぜん息・アレルギー 検査と薬はなぜ？を解決！」 |
| 平成 17 年 2 月 13 日 | NPO 法人環境汚染等から呼吸器病患者を守る会講演 市民公開講座
「セキ・アレルギー・喘息の疑問に専門家と熟練者が答える大相談会」
講演テーマ「自己管理に役立つ喘息の知識」 |

8. その他

赤澤 晃

- 日本アレルギー学会認定指導医（認定番号 第 360 号）
- 日本小児科学会専門医（認定番号 第 9607 号）
- 日本東洋医学会専門医（認定番号 第 93-2895 号）
- 外国医師臨床修練指導医
- 日本アレルギー学会評議員
- 日本小児アレルギー学会評議員
- 国立医療学会評議員
- 慈恵会医科大学小児科学講師
- 日本ラテックスアレルギー研究会代表
- 厚生労働省副作用判定調査会調査員
- American Academy of Allergy and Asthma & Immunology International Member